

英米の社会と文化I (その1)

2 units 2nd-year(1st semester)

Ayami Yoshida · ASSOCIATE PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES

Target) 英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテキストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

Outline) 主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。前期(その1)では、比較的平易な作品を取り上げる。

Keyword) *poetry in English, reading poems, introduction to English poetry*

Relational Lecture) “英米文化研究 I (その1)”(0.5), “英米文化研究 I (その2)”(0.5), “英米文化研究 II (その1)”(0.5), “英米文化研究 II (その2)”(0.5), “英米の社会と文化 II (その1)”(0.5), “英米の社会と文化 II (その2)”(0.5), “英米文化研究 III (その1)”(0.5), “英米文化研究 III (その2)”(0.5), “文化批評論 (その1)”(0.5), “文化批評論 (その2)”(0.5)

Notice) 隔年開講。2011 年度は開講する。

Goal)

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮して、作品の評価・批評が論理的にできる。

Schedule)

1. 以下にあげる詩人の作品の中から比較的平易なものを選び、毎回 3~5 編ずつ講読する予定です。学期中に 2 回のテストを行います。詳しい日程は最初の授業で指示します。
2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79),
3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962)
4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928)
5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67),
6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996),
7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939)
8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

Evaluation Criteria) 2 回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的

に評価する。評価のうち、テストを 8 割、その他を 2 割程度とする。

Re-evaluation) 行わない。

Textbook) 授業中に指定します。

Reference) 『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218385>

Contact)

⇒ Yoshida (1N10, +81-88-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL
(Office Hour: Tuesday 11:55-12:50)

Note) 隔年開講(前期)。2011 年度は開講..